

## 当院における臨床工学技士の医療機器管理の現状

上尾中央腎クリニック 透析技術科

○坂井 翔太、村山 真大、島崎 沙由香、長谷部 芙美恵、太田 恵、  
佐藤 典明、遠藤 清文、吉江 祐

近年、医療機器の発達に伴い適正な管理を行わないと診療に影響を与える危険性があることから臨床工学技士が管理する施設が増えており、臨床工学技士の需要が高まっている。今回、透析専門のクリニックである当院における臨床工学技士の医療機器管理の現状を報告する。

当院で所有し、管理している機器は、テルモ社製輸液ポンプ 2 台、テルモ社製シリンジポンプ 4 台、日機装社製透析用患者監視装置 (DCG-03) 35 台、これらはほぼ毎日使用しており日々の動作チェックや定期的な点検が必要である。DCG-03 では月に 1 回装置内の水漏れチェック、年に 1 回各種部品のオーバーホールを行っている。輸液ポンプ、シリンジポンプでは隔月での定期点検、動作点検をチェックシートを用いて行っている。尚、これらの機器のオーバーホール、点検方法についてはメーカー主催の研修へ参加、及びマニュアルを作成し臨床工学技士全員での手技の統一を図っており、装置の不具合が出た場合は正確かつ迅速に対応出来るようになっている。

日々のチェック、点検、オーバーホールによってトラブルもなく、安全に透析治療が行われている。